

語るBe・語り部

【山形県支部PEインタビュー】第4回

井上 憲治【建設：電力土木】編

I.はじめに

語るBe・語り部「PE インタビュー」第4回として井上憲治様にインタビューを実施しました。

内容は、井上さんの少年時代から高校、就職、そして東北電力でのキャリアに焦点を当てており、特に新日向川発電所建設工事におけるトンネル担当としての経験や、羽越水害発生時の上郷ダムでの管理業務に関する詳細な思い出が語られています。また、技術士の資格取得や東北電力退職後のキャリア、さらには趣味である野球、そば屋巡り、随筆についても触れられており、高度経済成長期の建設業界や電力業界の時代背景が垣間見える内容となっています。

日時：令和7年10月3日(金) 13時30分～

場所：株式会社田村測量設計事務所

対象者：井上憲治（建設部門）

STAFF：広報委員会 伊藤信生、加藤友之

山形県 後藤美保

オブザーバー：西尾 斉、小山田孝一



写真 1. インタビューの様子

II.インタビュー

1.学生時代

（司会）

少年時代から学生時代までのお話しをお聞かせください。

（井上）

昭和 15 年 12 月生れ 左官職人の次男 兄は神童と呼ばれたが 15 歳で病死しました。

昭和 20 年 山形市は空襲被害を免れましたが、空襲警報の掛け声のもと裏の畑に作った防空壕に逃げた記憶があるし、進駐軍の進出も良く憶えています。昭和 22 年入学、小学校時代は町内で少年野球チームがあり、エースでした。中学校は霞城公園内にあり、校舎は明治期に編成された元山形歩兵 32 連隊の兵舎を流用したものでした。公園西側には同じ建物で二中がありました、三年生のとき、現在の山形駅西に新築した三中に移転しました。

高校は山形工業高校土木科を卒業しました。

（司会）

工業高校土木科を選んだのはなぜですか。

（井上）

親の左官業を小学生の時から手伝いしており、私が三代目として跡を継ぐような自然の流れがありました。工業高校受験の際、父親に建築科に行きたいと言ったら、土木科を薦められました。理由は不明ですが、父は弟子を雇って請負師や大工さんからの仕事の依頼を受けて、仕事が途切れることもありませんでしたが、将来に向け限界を感じていたのかも知れません。



写真 2. インタビューの様子

2.就職後

(司会)

卒業後の進路(就職)を決めた理由をお聞かせください。

(井上)

工高での就職希望は、県内就職としていました。9割が関東、関西方面就職でした。金の卵というか中堅技術者を企業が求めている時代でした。運よく東北電力からの求人があり、選ばれて受験し入社が決まりました。東北電力は昭和26年に政府の電力再編成決議で東北配電と日本発送電の二社が合併して発足した会社で、全国が9電力に分割されました。合併後、高卒土木屋の採用は昭和34年が初めてでした。県内では私一人の採用で運が良かったと思います。

(司会)

就職後から現在に至る経歴をお聞かせください。

(井上)

昭和34年 東北電力(株)鶴岡修理所入社、以後、新日向川発電所建設所、上郷発電所、八戸火力発電所建設所、福島支店土木課等を経て、月山発電所建設所長、東新潟火力発電所建設所副所長。

平成10年 東北電力退職 (株)ユアテック山形支社入社。 工務部部長兼土木建築課長、 工務部部長、 平成17年ユアテック退職。 平成19年 (株)協同測量設計センター入社 技術本部長 現在に至ります。

3.印象に残っている仕事

(司会)

印象に残っている仕事を教えてください。

(井上)

以下があります。

- ◆ 新日向川発電所建設工事 21～23 歳
- ◆ 羽越水害(昭和42年8月28日～29日) 27 歳
- ◆ 八戸火力4号機の建設 30～32 歳
- ◆ 総合自動化 32～37 歳
- ◆ 東北電気工事(株)(現ユアテック)山形支社への出向 45～48 歳
- ◆ 月山発電所新設工事 50～55 歳

(司会)

編集の関係で3つに絞らせていただきます。

(井上)

まず、私にとって初めての建設現場であった新日

向川発電所建設工事について説明します。飽海郡八幡町(現酒田市)に14,000KWの水力発電所を新設する工事で、当時私は21歳でした。

昭和36年に実施測量のため現地に入り、三角測量は先輩社員が担当、私は水準測量や地形測量、BM設置作業を担当し、日向川沿いの県道6kmを往復誤差3mm以内に治まるまで継続しました。

昭和37年から延長6kmの導水路トンネルに着工、私は下流部4kmの担当となりました。まだ測量は直営時代で測量会社は出始めの頃でした。今になって当時のことを振り返ると、「よくこんな若僧に任せただけだ」と思います。

途中、シルト岩に湧水があり進めず、10m平行移動しルート変更した区間もありましたが、昭和38年5月に無事貫通することができました。誤差はレベルで3mm、センターで30cmでした。貫通が近くなり、切羽に立つと、削岩機の音が日一日と大きくなる緊張感、そして貫通、自分で測量しただけにその喜びは何物にも変えられない大きな忘れられない感動でした。トンネル掘削中、貝の化石も見つかり、EL170mの山も大昔は海だったという話や飽海郡の語源も、あながち嘘ではなく真実性を帯びていると感じました。



写真 3. 日向川発電所導水路トンネル貫通

昭和38年5月22日

(司会)

トンネルの貫通点で採取される石は『貫通石』と呼ばれて“安産のお守り”になると言われているようですが、採取されましたか。

(井上)

ここでは採取しませんでした。その後の本道寺発電所(西川町)の放水路トンネル工事などでは何個か採取しました。そして、職場の中で結婚した人

にお祝いとして贈ったり、結婚式のスピーチの後に「安産のお守りです」と言ってプレゼントしたりしたことが何回かあります。先日、何十年ぶりかであった女性から、「井上さん、あの石まだ持ってるよ」と言われ、とても嬉しかったです。

(司会)

次の仕事をお願いします。

(井上)

羽越水害の経験について説明します。昭和42年8月28日～29日、27歳の時でした。

昭和39年、昭和36年竣工の最上川本流にある15,000kwのダム式発電所である朝日町の上郷発電所勤務となりました。ダム高は23.5mで、ハイダム扱いとなり、ダム管理責任者の配置が必要だったため、私が配属されました。発電所員は15名、土木屋は私一人で、他の方は電気屋でした。昭和39年8月から昭和45年2月まで勤めました。

ダム管理業務のほか、上流大瀬測水所の測水、社宅の浄化槽清掃、機器の整備、油差し手入れ、湛水地および上流の深浅測量も実施、烏口を使い製図製本し、報告書まで提出したことを思い出します。なんでも直営ですから大変でした。一年間自炊も経験し、池内にダムゲート用角落し挿入のための浮クレーンがあり、クレーン運転士の免許も取得しました。

昭和42年8月28日から29日にかけて、飯豊山付近の低気圧が異常に発達し、日雨量600ミリの豪雨となり、荒川水系と最上川水系の地域に壊滅的な被害をもたらした、この未曾有の大水害は、のちに羽越水害と名付けられました。上郷ダムでは、29日昼頃に3038トンの最大流入量となり、既往最大流量となりました。なお、上郷ダムの計画最大洪水量は3500トンでした。

減水後、ダム下流の護岸は流失し、また、冠水により田畑・家屋は流失しており、下流にある地域の住民が、ダムのせいではないか、溜まった水を一気に吐き出したのではないかと騒ぎ出しました。

説明を求められたため、時の支店土木課長の阿部正男さんとダム下流の河原の石に座りながら20～30人を前に操作記録、ダム水位の自記記録チャートを見せてダム操作の正当性を主張しましたが、明治生まれのお爺さんも見たことが無い、水位記録は書き替えられる、ゲート前のゴミが一気に呑み込まれた等と反論され、信用してもらえませんでした。これに対し、水位記録は書き替え出来ない、我々も

初めての経験だ、過去の最大流量は1400トンであること、嘘だと思うなら上流域の被害を見てくれと説明を重ねていたところ、当時町議会議員だった阿部武雄さん(のち県議会議員)が、既往最大流量は1400トンと前にも聞いたことがある、嘘を言うような人ではないとの発言したことにより、その場の雰囲気は一変し、無事納得してもらうことができました。大岡越前ではないですが、正に白洲の場のようにでした。阿部議員とは、湛水池内にある大淀渡船場の護岸修繕のことで既往最大流量の話をしたことがあり、日頃のコミュニケーションの大切さを思い知らされました。



写真4. インタビューの様子

(司会)

次の仕事をお願いします。

(井上)

八戸火力4号機の建設について説明します。30～32歳の時でした。

先ほど説明した上郷発電所は、いろいろ経験は出来ましたが、体制は電気屋14人、土木屋は私1人で日常の業務は、雑用を含むメンテナンスであり、別の意味では、沈んでいた時期でした。私は更なる技術向上を目指し、建設現場勤務を希望し、異動したのがこの職場でした。

八戸火力発電所は1～2号機が石炭火力、3号機が重油火力で、発電所、ボイラーはケーソン基礎であった。昭和45年、4号機の建設が始まり建設要員として参画しました。長靴から地下足袋への現場の転換でした。基礎の形式は、より技術的な進歩もあり、ラフト基礎(筏基礎)が採用されました。工期の短縮と工事費の低減を考慮してのことです。発電機、ボイラー基礎は深さ5mの砂地盤に高さ5mのコンクリート隔壁とスラブを基盤目のように配置し、弾性床上の構造物として解析、電子計算機で応力計

算するものでした。地盤係数と許容沈下量の入力が必要でした。

当時電子計算機は本店にしかないので、荷重のデータシートを持参して何度も八戸～仙台間を往復しました。モーメントを算出し配筋計算を実施しました。工事に入りウェルポイントの施工に始まり、本館基礎、煙突基礎、冷却水路、重油タンク基礎も担当させてもらい、上司の適切な指導もあり、設計の能力がこの現場で向上したと思っています。しかし、現在、この4号機は廃止撤去され、偲ぶ姿ありません。

4. 技術士資格について

(司会)

技術士資格の取得についてどのようにお考えですか。

(井上)

立派な国家資格であり、どんどん挑戦して欲しいと思います。知名度はありませんが、識者は認めております。一流の技術者の証明です。

私は平成2年に初挑戦を仙台市で、2回目の受験は新潟市で、3回目は再び仙台市で受験しました。当時本店土木部門の副部長が、電力土木部門口頭試験の試験官をやっており、大いに受験を奨励していました。管理職の方々はこそって受験し合格していました。このように職場の気運が持ち上がりたと思います。また、平成20年代、酒田の技術士太田勝之さんと電力の職場と関連企業の職場を訪問し、技術士受験の啓蒙を図っておりました。

(司会)

技術士の資格を取ると会社からの待遇は何かあったのですが。

(井上)

合格した時に1回だけお祝い金をいただきました。確か10万円です。一級建築士も同じだったと思います。あと電気の分野では、電検という資格がありました。電検3種、2種、1種とあって、3種は取得する人が多く、2種を取ると大きな発電所の所長クラスになれました。1種は学者肌というか、受かる人は東北電力内でも相当稀でした。

5. 趣味

(司会)

ご趣味をお聞かせください。

(井上)

高校で野球をやっており、東北電力入社後も職場のチームで活動しておりました。全社大会にも数回出ました。九電力大会にも選抜されましたが、都合つかず辞退しました。30歳を過ぎ現役で通用しなくなると、野球との縁離れがたく、福島勤務時代、県北野球連盟の審判員を三年間勤めました。



写真 5. OB との強化試合

昭和32年上段左から4人目が井上氏

蕎麦が大好きで山形県内の蕎麦屋は200店ほど訪問しました。大石田町のきよ蕎麦、白鷹町の千利庵が最良でした。電力定年後、自宅に蕎麦小屋を建て、手打ちを楽しんでいましたが、令和に入り腰痛が進み断念しました。

ゴルフは平成2年大石田ゴルフクラブの会員となり、仕事の余裕ができた平成17年から本格的にプレーしました。ハンドの最高は18です。電力の仲間と10年間、大石田ゴルフ愛好会を主宰しておりましたが、腰痛、視力減退で令和元年に閉会しました。また、毎年2月に関東からも参加し同級生8名で温暖な、いわき市のハワイアンに集合し、ゴルフとフラダンスを楽しむ会を主宰しました。平成29年に高齢のため閉会しましたが、楽しい16年間でした。

現在、趣味は仙台市の随筆愛好会「春秋随筆」への投稿だけになってしまいました。他に個人の随筆集「青田の風」を随時発刊しております。



写真 6. 個人の随筆集

6.退職後

(司会)

退職後の行動をお聞かせください。

(井上)

退職後に担ってきた諸団体は次の通りです。

- 東北電力山形地区土木建築 OB 会
平成 10 年発足 継続中
- 山形電友連合会事務局長
山形電友会常任理事 退任
- 年金協会山形地区第一支部理事 退任
- 山形工業高校野球部 OB 会長 退任
平成 15 年にバックネットを新設するため募金運動を展開、200 万の資金を集めて構築した。また、野球部史創部 84 年史を創刊、今年発刊した 100 年史の基礎資料とした。
- 仙台市随筆愛好会「春秋随筆」会員継続中
- 山形県技術士会理事 事務局員 退任

技術士会とのご縁は平成 12 年、土生会長から声をかけられ、鈴木副会長兼事務局長の手伝いを頼まれました。私もコアテックの課長兼務が解けたところなので承知しました。山形県技術士会 20 周年記念行事に参画協力できたことが、想い出深いです。技術士会で私が企画実施した電力設備の現場研修会は次のとおりです。

発電所の新旧を訪ねて	山形県最古の白岩発電所と最新の本道寺地下式発電所と水ヶ瀬発電所を訪ねた 平成 18 年 8 月
新潟大河津分水資料館	明治期の大事業 山形県技術士会 20 周年記念研修、信濃川の分水による新潟平野の豊穡化、新潟県所属の技術士館長の案内、この企画は参加者に喜んでもらった。東新潟火力発電所と日本海 LNG 設備も研修 平成 19 年 9 月
水力と火力発電所	東北最古の仙台市三居沢発電所と重油から LNG に燃料転換する新仙台火力を訪問 平成 26 年 8 月
女川原子力発電所	休止中の原子力発電所の現状見学 平成 29 年 10 月



写真 7. 山形県技術士会 20 周年記念研修
新潟県大河津分水

(司会)

最近言いたいことやこれまでの人生を振り返っての感想をお聞かせください。

(井上)

自分としては、人を裏切らず誠実に生きてきたつもりです。人間社会も兵器の開発、自動車の開発、AI の進展、宇宙開発、原子力の開発、通信機器の進展、異常気象への対応など人間社会の限界が見えてきました。ここでそれぞれの課題を整理して安心して生活できるようにしたいものです。個人的には、転勤が多かったが、その土地特有の名勝や風俗に早く慣れ、郷に従えの精神で仕事を遂行してきました。40 歳まで子供を連れて転勤したので転校多く、子供には苦労かけたと思っています。

7.若い技術士に向けて

(司会)

若い技術士に対してご意見をお願いします。

(井上)

若いうちの資格取得、皆さん立派です。私は 50 歳での取得で経験工学みたいなものです。

8. 日本技術士会山形県支部に向けて

(司会)

日本技術士会山形県支部に向けて一言お願いします。

(井上)

最近の様々な活動を見聞し、素晴らしいし良く頑張っていると思っています。ここ二十数年で完全に若返り、やりがいのある技術士会になったのではと思います。三森支部長時代に頂いた板に墨書の「功労賞」は大事に飾ってあります。技術士会の皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。今後ともよろしくをお願いします。



写真 8. 功労賞（日本技術士会山形県支部）

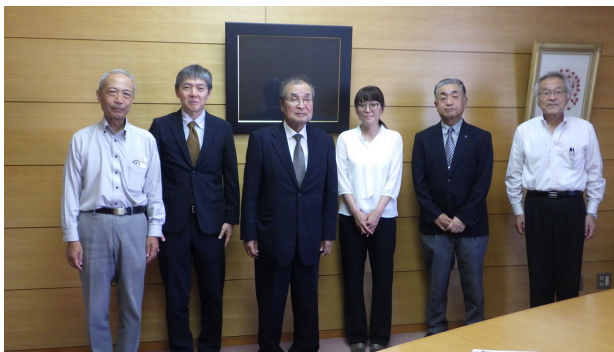


写真 9. 左から西尾氏、伊藤氏、井上氏、後藤氏、加藤氏、小山田氏

略 歴

井上 憲治（いのうえけんじ）

昭和 15 年 12 月 山形市五日町生まれ

昭和 34 年 3 月 県立山形工業高等学校土木科卒業

昭和 34 年 4 月 東北電力（株）入社

平成 4 年 3 月 技術士（建設部門）電力土木登録

平成 10 年 3 月 東北電力（株）退社

（株）ユアテック入社

平成 17 年 8 月 （株）ユアテック退社

平成 19 年 12 月 （株）協同測量設計センター入社

～現在に至る

【その他】

平成 12 年～平成 23 年 山形県技術士会事務局員

平成 14 年～平成 21 年 山形県技術士会理事

【資格等】

技術士（建設部門）

電力土木 水路構造物

一級土木施工管理技士

第一種ダム水路主任技術者

春秋随筆 会員

